

Go-Ahead

5 10年研 第5回 学校組織マネジメントについて アンケートの感想から

今回は兵庫教育大学大学院、浅野良一教授による学校組織マネジメントについてのご講義でした。多くの先生方に「なるほど～」と感じて頂けたようです。まるで目の前の霧が晴れていくような感覚でした。

あっという間の2時間でした。今まで何となく組織を見ていましたが、「見方」が少し分かったように思います。力のいれどころを見極め、学校組織を効率化させ機能的になるように行動したいです。年度末反省を校内で控えていますので、本日学んだことをミドルリーダーとして活かすことができるようにしたいです。“一校一仕事”できるように努力したいと思います。

一般企業と学校の組織との違いの分析や、組織を動かしたり、変革させたりする際の手の打ちどころなど、例を交えて教えて頂きました。学校を変えたいと、闇雲にもがいて、徒労感に襲われるのではなく、力のいれどころはどこか、どのように意思統一すればいいのか。今回学んだことで、新たなツールを得ることができたのではないのでしょうか。新しいことを学ぶ喜びや、新しい視点を得る喜びとは、まさにこのような実感ではないかと思えます。

今まで持ち合わせていなかった視点で、学校改革を学ばせて頂いた。また、他校の先生と話し、学校ごとに制度や分掌が随分と違うことが分かりました。学校の組織経営、学級経営を振り返る良い機会となりました。ルーティンを見直し、明日からまたがんばろうと思えます。

学校組織だけでなく、その中の学級、クラブなどの組織内で「子どもたちを活かす」という視点からも講義を聞くことができました。また、学校特有の組織構成（石垣タイプ）に矛盾を感じる場所もありましたが、今回のお話で理解できました。

プレッシャーかもしれませんが、ミドルリーダーとしての自分の立ち位置、期待されていることなどにも気が付いて頂けたのではないかと思います。こういった“マネジメント観”をミドルリーダーの皆さんにも持っていてもらいたいです。そうすることで、良いリーダーとして、または良いフォロワーとしてのあり方も得られるのではないのでしょうか。

今学校や子どもがどうなっているのか、どのような状況なのかを見つめ、そこからどのような姿を目指していくのかを考え、計画を立てていくことが大切だと感じた。ただ単に学校を変えていくという考えだけでなく、背景を見つめ、見通しを立てていく必要がある。よりよい学校、働きやすい職場をつくっていくために、ミドルリーダーとしての自分の立場や役割をしっかりと意識していかなければならないと思った。まずは、学年の小集団から中心となり、よりよい方向へ向かっていける力になっていきたい。

「人は状況の理解・納得で動く」という言葉が心に残りました。学校だけでなく、学級集団づくりでも、そうだと思います。今日の講義をいかして、ミドルリーダーの立場で動いていけるようにがんばっていきたいです。

みなさんの日々の教育活動は、学校のミッションやビジョンの延長線上にあるのでしょうか。そもそも「状況」は共有されているのでしょうか。フラット型組織のワイガヤ会議が威力を発揮するところかもしれません。

「活私奉公」という言葉にひかれました。自分の強みを活かして、自分のできることを少しずつ学校に返していくことができたらと思います。

組織マネジメントは「一般解」ではなく「特殊解」なのだ。“うちの学校でうまくいく方法”を探していくことが大事だということが一番大きくノートにメモさせていただきました。1つ1つの項目に具体例を示されながらお話していただいたので、ポイントがわかりやすく、この研修1回で様々な知識を得ることができうれしかったです。“燃えるものから燃やす”は心に残る名言でした。一校一仕事がんばります。

「ドリーム」はまさに火種、熱源です。皆さんミドルの戦略的突出は組織を変革する大切な要素です。